



CAMPUS

Vol. 145

令和8年3月発行

2026 SPRING 奈良工業高等専門学校

〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町22
奈良工業高等専門学校 広報センター
TEL. 0743-55-6034 (CAMPUS担当)
ホームページ <https://www.nara-k.ac.jp>
メールアドレス gakusei@jimu.nara-k.ac.jp



C contents

巻頭言 02
 奈良高専学生アイデアチャレンジ2025 03
 奈良高専アントレプレナーシップ教育プログラム
 卒業・修了予定者 進路状況 04
 卒業・専攻科修了おめでとう! 05
 クラブ・同好会紹介(バレーボール部・化学同好会) 08
 全国高校軽音学部大会オリジナルソングコンテスト

令和7年度後期 学生表彰者一覧 09
 令和7年度 英語表彰者一覧
 海外へ飛躍するチャンスをつかもう 10
 学生会活動について
 KOSENセキュリティコンテスト2025 11
 高専GCON2025
 カウンセラーだより

☆全国高専ラグビー大会3連覇
 ☆第59回高専祭について
 ☆学生課窓口のご案内
 ☆卒業記念品の寄贈
 ☆編集後記



奈良高専公式 HP



奈良高専公式 X



奈良高専公式 Instagram



酒井 史敏

教務主事

年度の節目となる三月を迎え、本校は新たな門出に立つ学生の皆さんを祝うとともに、次の一年に向けた準備を進める大切な時期を迎えています。春は、学びを通して成長した自分を振り返り、これから始まる新たな挑戦に向けて気持ちを整える季節です。学生の皆さんにとっても、これまでの努力を確認し、次のステージへ踏み出す節目であり、本校にとっても、教育の在り方を見つめ直し、時代の変化に応じて進化していくことを再確認する重要な機会となります。

本校では現在、将来を見据えた教育改革を着実に進めています。その中心的な取り組みの一つが、令和9年度に実施を予定している学科改組です。近年、デジタル技術の進展や社会課題の複雑化、国際競争の激化など、技術者を取り巻く環境は大きく変化しています。これからは、専門知識を深めると同時に、分野横断的な視点で課題を捉え、多様な人々と協働しながら新しい価値を創造する力が一層求められます。こうした社会の変化に対応するため、本校の学科改組では、専門分野の体系を見直しつつ、AIやデータ活用の学修を適切に位置づけ、専門の確かさとAIリテラシーを併せ持つ学びへと深化させていきます。授業内容の改善、全学科共通科目の充実、教育設備の更新など、教育全体をより良くする取り組みは、改組後に入学する学生だけでなく、在校生の皆さんにも日々の学びやすさとして反映されていきます。

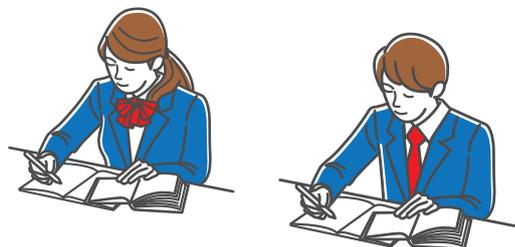
教育改革を支える基盤として、本校では学習環境の充実にも取り組んでいます。その一例として、1～3年生を対象にスタディサプリを導入し、基礎学力の定着

や個別最適な学習に取り組める環境づくりを進めています。自分のペースで復習や発展内容に取り組める利点を活かし、必要なときに必要な学びへアクセスしながら、自ら学びの進め方を考え、主体的に取り組む姿勢を育んでほしいと考えています。

さらに、本校では実社会とつながる学びを重視しています。これからPanasonic × KOSEN連携協定を活用し、キャリア教育を本格的に展開していきます。企業の技術者や社員の方々との交流、実社会の課題を題材とした学習、現場での体験を伴う取り組みを通じて、授業で学んでいる内容が社会のどのような場面で生かされるのかを実感する機会が増えていきます。社会の最前線に触れることは、学生の皆さんの視野を広げ、学びへの意欲や将来像の具体化にもつながるはずです。また、本校が大切にしている教育の柱の一つに、アントレプレナーシップ教育があります。ここで重視しているのは、起業そのものを目的とすることではなく、自ら課題を見つけ、その解決に向けて考え、行動する姿勢を育むことです。失敗を恐れず挑戦する態度、多様な仲間と協力して新しい価値を生み出す経験、そして社会の現場で求められる実装力は、どのような進路に進んでも欠かすことのできない力です。こうした力を育むためにも、多様な学びや実践に自ら進んで挑戦してほしいと考えています。

最後に、本校を巣立つ卒業生の皆さんへ、心からのお祝いを申し上げます。5年間（専攻科生は7年間）にわたり積み重ねてきた専門の学び、数多くの実験・実習、仲間とともに取り組んだ研究活動など、そのすべてが皆さんの確かな財産です。本校で身につけた「考え抜く力」と「行動する力」を胸に、自信をもって次のステージへ踏み出してください。これからの新しい環境で、それぞれの強みを生かし、社会に新たな価値を創り出していくことを心より願っています。

※学科改組の計画は、文部科学省に認可申請予定のため、変更になる可能性があります。





通称「学チャレ」は、「やってみたい!」という学生のアイデアを形にする実践型プロジェクト支援です。自ら掲げた目標に挑戦し、試行錯誤を通して実践力・課題解決能力を磨くことができます。今年度は、公益財団法人寺田科学技術育英会、奈良高専地域イノベーションコンソーシアム、奈良高専同窓会のご支援により、過去最多となる9件のプロジェクトを採択し、1件あたり最大20万円の助成を実施しました。成果は2月の報告会で発信しました。

2026年度の挑戦者は、あなたです。

SIC2025 中間報告会の様子

<https://www.nara-k.ac.jp/contribution/otherproject/2025.html>



SIC2025 成果報告会の様子

https://www.nara-k.ac.jp/contribution/otherproject/2025_2.html



学生アイデアチャレンジについて

専攻科 システム創成工学専攻 機械制御システムコース2年 小山 遼

私たちは、大和郡山市の矢田寺に安置されている地藏菩薩立像をモチーフに、地域振興を目指すシステム「おみく地蔵」を製作しました。本システムは、来場者のお辞儀を認識すると扉が開き、おみくじが出てくる仕組みとなっています。機械、電気、電子制御を専門とする学生が参加し、限られた時間内でスケジュール管理を行いながら、各分野の強みを活かして主体的に製作を進めました。製作過程では多くの技術的課題に直面しましたが、試行錯誤を重ねて改善を行うことで、技術力や問題解決力の向上につなげることができました。

完成した「おみく地蔵」は愛知県で開催されたMicro Maker Faireなど複数のイベントに出展し、700名以上の方に体験いただきました。幅広い世代に好評で、科学技術やものづくりに興味を持つきっかけづくりに貢献しました。

最後になりましたが、本プロジェクトをご支援いただいた学生アイデアチャレンジに感謝申し上げます。



2025年度 奈良高専アントレプレナーシップ教育プログラム

“将来の不安”を“今の行動”に変える方法 ～実施の報告～

特命助教
藤本 森峰

奈良高専では令和7年度より、新たにアントレプレナーシップ教育プログラムを開講いたしました。本プログラムは「将来の不安を今の行動に変える」というコンセプトのもと、不確実性が高まる社会において、学生が自ら課題を見つけ、協働しながら解決に向けて行動する力を育成することを目的としています。

全8回のプログラムでは日本版EntreCompに基づき、興味マップによる自己理解と課題発見から始まり、SCAMPER法を用いたアイデア創出、ペルソナ設定・ニーズ分析、情報構造化などを通して、アイデアを「誰に、どのような価値を届けるか」という観点で具体化しました。後半では、SWOT分析やリスクマトリクスにより実現可能性を整理し、最終的に1分ピッチと振り返りを通して表現力と自己評価力の向上を図りました。

また、外部講師3名をお招きし、クラウドファンディングによるチーム形成や学生起業の経験など、実践的な知見をご講話いただきました。学生アンケートでは、「興味から社会課題を見つけられた」「アイデアを言語化し整理できた」「行動意欲が高

まった」といった声が寄せられ、講義と講演が相乗的に機能している様子が確認できました。

本プログラムは初年度の試行段階ではありますが、日本版EntreCompに基づき興味を起点とした課題発見と体系的な思考ツール、実務家の知見を組み合わせることで、学生のアントレプレナーシップ育成に有効に働く可能性が示唆されています。今後も内容改善と評価を進め、高専教育における新たな学びのモデルとして発展させてまいります。





卒業・修了予定者 進路状況

(令和8年2月28日現在)

令和7年度 第5学年卒業予定者 大学編入学等進学状況

区分	大学名・学部名	人数	
高専 専攻科	奈良工業高等専門学校 専攻科	32	
	和歌山工業高等専門学校 専攻科	1	
	小計	33	
国立 大学	長岡技術科学大学 工学部	2	
	豊橋技術科学大学 工学部	3	
	東北大学 工学部	3	
	大阪大学 工学部	1	
	筑波大学 理工学群	1	
	東京科学大学	工学院	1
		生命理工学院	1
	神戸大学 海洋政策科学部	2	
	岡山大学 工学部	1	
	広島大学 理学部	1	
	熊本大学 工学部	2	
	北見工業大学 工学部	1	
	東京農工大学 工学部	1	
	電気通信大学 情報理工学域	1	
	三重大学 工学部	1	
	京都工芸繊維大学 工芸科学部	3	
	奈良女子大学 工学部	2	
	島根大学 総合理工学部	1	
	山口大学 工学部	1	
	徳島大学 理工学部	1	
小計	30		
公立 大学	大阪公立大学 工学部	1	
	兵庫県立大学 工学部	1	
	小計	2	
私立 大学	同志社大学 生命医科学部	1	
	小計	1	
合計		66	

令和7年度 第5学年卒業予定者 就職内定状況

企業名	人数	企業名	人数	企業名	人数
アークレイ	1	キャノンマーケティングジャパン	1	TOA	1
アイ・エス・ビー	1	クボタ	1	TDCソフト	1
アイコム	1	グリーンホールディングス	1	DMG森精機	1
アイテック阪急阪神	1	京阪電気鉄道	1	テルモ	2
旭化成	2	コスモ石油	2	東海旅客鉄道	1
アサヒビール	1	小松製作所	1	東京ガス	1
朝日ビルディング	1	サイレックス・テクノロジー	1	トーテックアメニティ	2
味の素	2	サントリー	1	南都銀行	2
アステック	1	サントリープロダクツ	1	ニコン	1
アステラス製薬	1	サントリーホールディングス	2	西日本高速道路ファシリティーズ	1
eBASE	6	J-POWER/ハイテック	2	日本ニューロン	1
インフォコムテクノロジーズ	1	ジェイテック	1	任天堂	1
ANAエンジンテック	1	JERA	1	パーソルクロステクノロジー	1
エクシオ・デジタルソリューションズ	1	芝浦機械	1	パナソニック インダストリー	1
エスアイエス・テクノサービス	1	シャープ	1	ヒラノテクシード	1
エスユーエス	1	ジャパンマリンユナイテッド	1	FIXER	1
エヌ・ティ・ティエムイー	1	新明和工業	1	富士フィルム	1
NTTデータMHIシステムズ	1	SCREENセミコンダクターソリューションズ	1	本田技研工業	1
エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア	1	スズキ	1	水資源機構	1
NTT西日本	1	第一三共	1	三菱重工業	1
NTTPCコミュニケーションズ	3	Daigasエナジー	1	三菱電機エンジニアリング	1
エネゲート	1	Daigasガスアンドパワーソリューション	1	三菱電機電子通信システム製作所	2
エムジー	1	ダイキン工業	1	村田機械	1
大阪ガスネットワーク	1	ダイダシ	1	モリタ製作所	1
大阪シーリング印刷	1	大鉄工業	1	森永乳業	1
奥野製薬工業	1	大同化学	1	UHA味覚糖	1
オブテックス・エフイー	1	大日本精機	1	ラック	1
川崎重工業	1	太陽ファルマテック	2	理研ビタミン	1
関西設計	1	大陽日産ATI	1	合計	105
関西電力	1	中部電力	1		

令和7年度 専攻科修了予定者 大学院進学予定状況

大学院名	研究科名	人数
長岡技術科学大学院	工学研究科	1
東北大学大学院	工学研究科	1
	情報科学研究科	2
大阪大学大学院	工学研究科	3
	理学研究科	1
岡山大学大学院	環境生命自然科学研究科	1
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	2
京都工芸繊維大学大学院	工芸科学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科(情報科学)	8
	先端科学技術研究科(物質創成科学)	4
合計		24

令和7年度 専攻科修了予定者 就職内定状況

企業名	人数
ウシオ電機	1
叡山電鉄	1
カネカ	1
カプコン	1
TMEIC	1
DMG森精機	1
デンソー	1
TDCソフト	1
西日本旅客鉄道	1
日東電工	1
日本液炭	1
マツダ	1
ラック	1
合計	13



卒業おめでとう！

機械工学科5年 南崎 壽伸

入学以来5年間同じ仲間と学び、遊び、成長してきました。

5年生となり、卒業研究に取り組む中で、それぞれが自分のテーマに向き合い、学びを深めています。

私は、卒業研究として流体力学に関するテーマを研究しています。試行錯誤を重ねながら実験や解析を進める日々は大変である一方で、大きなやりがいを感じています。同じ研究室のメンバーと助け合いながら研究を進められるのは、5年間共に過ごしてきたからこそだと思っています。



スポーツ大会

高専生活で手に入れた仲間や絆は、かけがえのないものです。皆さんもぜひ、コミュニケーションを大切にしながら、素晴らしい高専生活を送ってください。



3年次工場見学

機械工学科5年学級担任 廣 和 樹

5Mの皆さん、ご卒業おめでとうございます。担任として皆さんとは3年次から関わってきましたが、SNSの普及もあり、皆さん一人ひとりに対して例年以上に多くの思い出が残りました。今は嬉しさと同時に少し寂しさも感じています。ありがとうございました。

さて、4月からは新生活が待っています。奈良高専で過ごした日々を時折、思い出して頂ければ嬉しいですが、何よりも事故や怪我なく元気で過ごされることを願っております！では！

電気工学科5年 岩崎 隼士

あっという間だった5年間

高専の5年間は、入学当初とても長いと思っていました。でも実際に過ごすとなんてあっという間でした。グループ実験やインターンシップ、高専だからこそできる経験を重ねるうちにどんどんと時間は過ぎていきましたが、特に卒業研究を行った5年生が一番早く過ぎていった一年でした。研究のための勉強や情報収集のために参加した学会などを通して、それまで知らなかったことを多く学び、知識として身に付けるために奔走しました。それは大変でしたが、同時に貴重な経験をした時期でもありました。また、研究を通して自分に足りない所を見つめ直すこともできました。私は論文や資料作りに苦労しています。今までの実験



5年スポーツ大会

レポートの経験を活用しても、相手に伝わりやすい文章を書くことは難しいです。5年間の高専生活で鍛えられたと思うのはレポートを書く文章力です。でも、まだ足りないと思うものも論文などの文章力です。

私は4月から専攻科生になります。残りの2年、研究に取り組める今を有効に使い、文章力をはじめとした将来のために必要なことを身に付けていきたいです。



研究室の先生と仲間たち

電気工学科5年学級担任 石 飛 学

卒業おめでとう！5年前、まだコロナ禍から抜け出せない中、1年遅れの東京オリンピックがあって、半導体不足が身近に感じられるようになって、その後、世界がおかしくなって、国内では物価がどんどん上昇して。生成AIの急速な進化も自民党の圧勝も、想像を遥かに超えた変化が今も続いています。そんな中、クラスでケンカして仲直りしたり、部活を頑張ったり、しっかり学生生活してたね。

卒業すると、今度はみんなが世界を変えていきます！流されずに波を乗り越えて、さらには流れをつくっていくんだよ。人のつながりを広げて、もっともっと大きくなっていくみんなに期待しています！



電子制御工学科5年 服部 日向

私が5年間の高専生活で感じたことは、「個性を伸ばせる学校だった」ということです。

実験やレポート、部活動、研究と忙しい日々ではありませんでしたが、非常に充実した時間を過ごしました。特に部活動の部長や学生会役員、高専祭実行委員など、さまざまな役職を務めたことは、私にとって貴重な経験です。授業で得た専門知識に加え、これらの活動を通して培ったコミュニケーション能力は、卒業を目前にした今、自分自身の強みになっていると実感しています。

高専には個性豊かな人が集まります。そしてその個性を認め合える雰囲気がこの学校にはあります。クラスメイトもまた個性豊かな人ばかりで、5年間、互いを認め合いながら共に成長してきました。この環境こそが、私たち一人ひとり



2024年度ハイキング

の個性を伸ばし、強みに変えてくれる高専ならではの良さだと思います。

在校生の皆さんには、この環境の中で多くのことに挑戦し、さまざまな経験を積んでほしいと思います。それらはきっと将来の支えになります。学生生活は思っている以上に早く過ぎていきます。よく言われることですが、人生は楽しんでもの勝ちです。今この瞬間を大切に、思いきり学生生活を楽しんでください。

最後になりましたが、5年間共に過ごしたクラスメイト、日々指導くださった先生方に心より感謝を申し上げます。5年間ありがとうございました。



2025年度最後の体育

電子制御工学科5年学級担任 太田 孝雄

ご卒業おめでとうございます。これまでの高専生活の中で、楽しいこと、悔しい思いや納得できないこともたくさんあったと思います。その中でも前へ進み卒業を迎えられたことを嬉しく思います。そして、これから次のステージへ進み、楽しいことよりもしんどいことの方が多いのかもしれない。これまでは他人のせいになしたり、言い訳したりしながら生きてきた人も多いかと思いますが、これからはすべて自分の責任です。どんな状況でも、誠実に謙虚な心で全力を尽くせるかが重要だと思います。

ひたむきに前へ。皆さんの健康と今後のご活躍を心より願っております。それでは、行ってらっしゃい!

情報工学科5年 柏本 啓太

私がこの5年間で最も学んだことは、仲間との助け合いです。

入学当初は、新型コロナウイルスの影響で対面授業と遠隔授業を行き来する生活でした。入学以前と異なる授業形態に苦戦する中でも定期テストやレポートでの壁を越えていったのは、クラスメイトや友達と協力していったからだと思っています。

対面授業へ戻ってからの特に印象に残っている出来事は、毎年のスポーツ大会です。その中でも、私は3年生から友達と共にコスプレをして出場しました。お互いの格好に戸惑い笑い合いながらも、衣装を買ったり作ったりして競技に全力で取り組んだ時間はとても良い思い出です。

クラス以外でも部活動に取り組み、副部長という立場で活動させてもらいました。試合や練習を重ねていく中でも人と人との関わり合いの重要性を実感し一人ではできないこと、



スポーツ大会

仲間とできないとできないことが沢山あると知りました。

これから私達は様々な進路を歩むこととなりますが、新たな環境の中でも仲間への感謝を忘れず大事にしていきたいと思っています。最後にはなりますが、このクラスで5年間を共に過ごしてくれたクラスメイトや友達みんな、それを見守ってくれた先生方に心の底から感謝申し上げます。5年間ありがとうございました!!



5年前期体育最後の授業

情報工学科5年学級担任 内田 眞司

ご卒業おめでとうございます。

現代社会では効率化が重視され、最小コストで成果を求めることが正しいとされがちです。しかし、本当に大切なのは「答えを出す速さ」ではなく、「学びのプロセス」です。「学びのプロセス」には回り道もありますが、試行錯誤や失敗から学ぶ力、問いを立てる力、他者と協働する力が育つ場でもあります。こうした力は、AIが最も苦手とする「文脈を読み取り、自分の価値観で判断する力」そのものです。効率が求められる時代だからこそ、遠回りに見える経験が、深い理解と確かな自信を育てます。

卒業後も、焦らず、回り道を恐れず、自分の歩幅で学び続けてください。





物質化学工学科5年 岡田 康平

僕の中で一番記憶に残っていることは、友達と過ごした時間です。高専入学時からほとんどメンバーが変わることなく、5年間という長い時間を共に過ごしてきました。入学当初はお互いに緊張もあり、どこか距離を感じていましたが、日々の授業や実験、日々の会話を重ねるうちに、気軽に話せる存在になっていました。スポーツ大会や高専祭などの様々な学校行事では、仲間と協力し、一つの目標に向かって取り組む中で親睦を深めることができました。また、4年生の終わりから本格的に取り組んだ卒業研究も、僕にとって記憶に残っています。思うような結果が得られず悩むこともありましたが、別の研究室の友達と励まし合い、時には協力しながら取り組むことで、最後までやり遂げることができました。この経験を通して、人とのつながりの



ハイキング

大切さを改めて実感しました。この5年間で得た知識や技術はもちろん、かけがえのない仲間と出会えたことが、いつまで経っても忘れられない大切な思い出として心に残り続けると思います。

最後になりましたが、ここまで支えてくださった先生方をはじめ、先輩方、そして共に歩んできた友達に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



卒研発表会

物質化学工学科5年学級担任 伊月 亜有子

ご卒業おめでとうございます。私が学生の頃、母から「若いということは特権だ」と言われたことがあります。当時は実感できませんでしたが、今ではその意味がよく分かります。若さは、失敗しても何度でも挑戦できる最大の武器です。失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦してください。

そして、学生時代に苦楽を共にした友人は一生の宝物です。就職や進学など、それぞれの道へ進んだとしても、苦しいときに支え合える友人を大切にするとともに、皆さん自身も誰かを支えられる存在になってください。

皆さんのこれからのご活躍を心より応援しています。

専攻科 修了おめでとう!



システム創成工学専攻 機械制御システムコース2年 荒井 将貴

7年間の長い学生生活もついに終わりを迎えようとしています。部活動では仲間とともに最高の思い出ができ、今でも当時を振り返ると楽しかったなと感じます。専攻科では工作機械に触れる機会が多く、講義を通してアイデアをカタチにするものづくりの経験も積むことができました。

最後になりましたが、これまで支えていただいた先生方、同級生や部活動で切磋琢磨した部員たちに感謝いたします。そして、家族の支えに心から感謝いたします。



システム創成工学専攻 情報システムコース2年 島岡 宏彰

7年間という長い高専生活も終わりを迎えようとしています。専攻科では授業や研究を通して発表の機会が多く、忙しさや不安から逃げ出したくなる日もありました。しかし、進み続けることができたのは、周囲の方々の支えがあったからです。この2年間は自分自身が大きく成長できた期間だったと感じています。ご指導くださった先生方、同級生や研究室のメンバー、そして支えてくれた家族に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

専攻科生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。

専攻科の生活はいかがだったでしょうか。これから皆さんは、それぞれ新しい道へ進んでいきます。現代社会は多様性にあふれ、さまざまな価値観が交錯しています。その中では、わからないことや迷うことも多いと思います。しかし、皆さんは専攻科での学びを通して、問題を発見し、解決へと導く力を身につけてきました。その力を信じ、自ら考えながら一步一步進んでいってほしいと思います。人生100年時代と言われる今、急ぐ必要はありません。ゆっくりと、しかし確かな足取りで歩んでいってください。皆さんのこれからの活躍を心から期待しています。



システム創成工学専攻 電気電子システムコース2年 甲元 陸羽

奈良高専で過ごした7年間で、助けてもらうことは決して当たり前ではないと痛感しました。本科ではラグビー部の活動を通して、専攻科では研究活動や学会発表、様々なコンテストへの参加を通じて、多くの支えがあったからこそ、やりたいことに挑戦し続けることができました。

支えてくださった先生方、職員の皆様、同級生、家族に感謝します。ありがとうございました。そして、これからの挑戦と成長した姿を届けることで恩返ししていきます。



物質創成工学専攻2年 木下 瞳月

思い返せば、私の高専生活は、勉強や進路、研究に至るまで、常に悩み続けた7年間だったように思います。それでも最後まで駆け抜けることができたのは、高専で出会った友人や先生方をはじめ、多くの方々への支え、導いていただけの恵まれた環境があったからです。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

これからの進路においても、これまでの思い出を糧とし、また、これまで自分が周囲の方々から受けてきた支えを、今度は自分が誰かに返していけるよう、日々精進していきたいと思っています。

専攻科長 松村 寿枝



クラブ・同好会紹介

vol.33

体育部	文化部	同好会
アーチェリー 合気道 弓道 剣道 硬式テニス 硬式野球 サッカー 柔道 少林寺拳法 水泳	ソフトテニス 卓球 バスケットボール バドミントン ハンドボール バレーボール ラグビーフットボール 陸上競技	からくり 機械研究会 軽音楽 茶道 システム開発研究会 将棋 情報処理研究会 吹奏楽 美術 放送
		化学同好会 合唱同好会 クイズ研究会 手芸同好会 生協学生同好会 数学同好会 電気技術研究会



バレーボール部

電気工学科3年 菊山 翔斗

バレーボール部は週5回、第2体育館で活動しています。男子のみで練習する日と男女混合で練習する日があり、それぞれの良さを活かしながら技術向上に取り組んでいます。パスやレシーブ、スパイク、サーブなどの基礎練習を中心に、実践形式の練習やゲームを行い、試合で必要となる判断力や連携力を養っています。また、水曜日には外部コーチを招き、専門的な指導を受けることで個人技術とチーム力の向上を目指しています。

初心者から始めた部員も多く、学年や男女の垣根を越えて互いに教え合いながら、明るく活気のある雰囲気です。



化学同好会

物質化学工学科3年 中筋 瑠奈

私たち化学同好会は、化学の面白さを探求し、共有することを目的に活動しています。主な活動は、週に数回の実験と、高専祭に向けた準備です。実験では、授業では扱いきれない発展的なテーマや、身近な材料を使った化学反応に挑戦しています。

一番の盛り上がりを見せるのは高専祭です。子供向けの実演や体験コーナーを企画し、来場者の方々に化学の面白さを伝えることにやりがいを感じています。

「実験が好き」「教科書以上のことを知りたい」という方はもちろん、未経験者も大歓迎です。学年を問わず仲良く活動しているので、興味のある方はぜひ一度実験室を覗きにきてください。一緒に化学の世界を楽しみましょう!

第5回 全国高校軽音楽部大会 we are SNEAKER AGES 第4回 オリジナルソングコンテスト 優秀賞

電子制御工学科3年 田原 きよら・高辻 月見

私たちは、「第5回 全国高校軽音楽部大会 we are SNEAKER AGES 第4回 オリジナルソングコンテスト」において、全国の高校生の応募作品の中から上位5校に贈られる優秀賞を受賞しました。ブラッシュアップ期間では、審査員を務められたGLAYのTERUさん、GRe4N BOYZの皆さんをはじめとするプロアーティストの方々から講評をいただき、音楽制作に向き合う上で非常に貴重な経験となりました。

受賞曲は、「17歳」という年齢ならではのモトリアムをテーマにした楽曲です。将来を考えた中で感じた不安や焦り、「大人と子供のあいだ」に立つ揺れ動く気持ちを、飾らない言葉で素直に表現することを意識しました。同じ思いを抱える同世代の人や、かつてモトリアムを経験した大人にも届いてほしいと考えています。

また、2025年夏のスニーカーエイジ関西地区大会では、本校メンバー9人のチームで出場し、上位5校に選出され本校初となるグランプリ大会へ進出しました。

これらの成果は、日頃から支えてくださる先生方や仲間、家族の存在があってこそだと感じています。感謝の気持ちを忘れず、これからも音楽と真摯に向き合い、成長し続けていきたいです。





令和7年度後期 学生表彰者

- 優秀賞**…………… 在学5年間に於いて、学業成績が優秀で、人物が優れている者に贈られます。
- 特別賞イ**…………… 在学期間中、全国高専大会に3回以上出場した者並びに課外活動等において特別な功績があった者に贈られます。
- 特別賞ロ**…………… 全国大会又はこれに準ずる大会において、優勝又は準優勝した個人又は団体に贈られます。
- 特別賞ハ**…………… 口に準ずる催し物において、それらと同等と認められる成績を挙げた個人又は団体に贈られます。
- 特別賞ニ**…………… 学校内外において特別な善行、学生の模範として推奨できる行為又は功労等のあった個人又は団体に贈られます。
- 専攻科研究優秀賞**…………… 専攻科在学期間中、論文等の特に優れた学術研究活動が認められた者に贈られます。

優秀賞(11名)

機械工学科5年	上北 涼斗	夏目健太郎
電気工学科5年	岡野 響	三樹 汰陽
電子制御工学科5年	石井 大智	中塚 響
情報工学科5年	小林 瞳子	西澤 恭祐
物質化学工学科5年	高井 心亜	原田 綾音
CHAMROEUN SEREY BOTT (ポット)		

特別賞イ(14名)

機械工学科5年	石田 眞子	全国高等専門学校体育大会 柔道競技 第57～60回 出場
	上中 理央	レスリング競技 全日本大会・アジア選手権大会等 多数出場
	藤井 晴翔	全国高等専門学校体育大会 水泳競技 第56～60回 出場
	南崎 壽伸	全国高等専門学校体育大会 水泳競技 第56～59回 出場
	安田 怜生	全国高等専門学校ラグビーフットボール大会 第52～56回 出場
	矢部 亨	全国高等専門学校体育大会 水泳競技 第56～60回 出場
	山田 智也	全国高等専門学校体育大会 第28～30回出場
	横田 侑空	全国高等専門学校体育大会 陸上競技 第58～60回 出場
		全国高等専門学校体育大会 バドミントン競技 第57・59・60回 出場
電気工学科5年	高田 栞奈	全国高等専門学校体育大会 水泳競技 第57～59回 出場
	橋本 真悟	学生会活動 功労(学生会長1期、副会長1期)
	宮川 匠	全国高等専門学校ラグビーフットボール大会 第52～56回 出場
電子制御工学科5年	神元 詞結	全国高等専門学校将棋大会 第28～30回出場
	仙入 汐夏	全国高等専門学校将棋大会 第28～30回出場
物質化学工学科5年	奥田 陽美	全国高等専門学校体育大会 陸上競技 第56～60回 出場

特別賞ロ(35名)

第56回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会	優勝(25名)
機械工学科5年	南崎 壽伸
電気工学科5年	宮川 匠
機械工学科4年	岡本 優誠 小泉 心護 丸本 隼大
	宮下 翔
電気工学科4年	小川 正悟
情報工学科4年	佐藤 清正
機械工学科3年	垣本 祥吾
電気工学科3年	中原 颯遵 八方 悠斗 松村 奏佑
電子制御工学科3年	前田 篤彦
物質化学工学科3年	高木 啓達 森川 温史
機械工学科2年	金野 倖大 窪田明日斗 小倉 翔斗
	西本 悠真 箕浦 悠月 吉村 樹蕾
電気工学科2年	伊藤 遼哉 加来 将暢 林 航太郎
	本田 煌翔

第42回通信制全国高等専門学校アーチェリー競技会(6名)

女子	物質化学工学科3年	井上 理恵
団体戦(50m・30m)		福本 優希(個人戦(50m・30m)優勝)
優勝	物質化学工学科2年	角 彩世(個人戦(50m・30m)2位)
男子	電子制御工学科4年	下浦 大輝
団体戦(70mW)・	物質化学工学科4年	藤長 賢志
団体戦(50m・30m)	物質化学工学科3年	渡邊 周平
2位		

KOSENセキュリティコンテスト2025 優勝(4名)

情報工学科5年	西澤 恭祐
	和田 颯太(他、DEF CON CTF Finals 世界2位チームに参加)
情報工学科4年	浦久保拓人
情報工学科2年	恒川向日葵

特別賞ハ(3名)

第5回全国高校軽音楽部大会 we are SNEAKER AGES オリジナルソングコンテスト 優秀賞(2名)

電子制御工学科3年 田原きよら 高辻 月見

日本設計工学会誌表紙デザインコンテスト 最優秀賞(1名)

システム創成工学専攻 機械制御システムコース1年 山本 理人



令和7年度 英語学習表彰者

英語学習表彰制度

本校学生の英語力向上を図るため、TOEICスコアの優秀者と英語検定合格者を表彰する制度です。令和7年度は計15名の学生が、次の基準によって表彰を受けました。

英語学習優秀賞

本科生・専攻科生のうちTOEICスコア735点以上または英検準1級以上に合格した者

英語学習奨励賞

本科生・専攻科生のうちTOEICスコア605点以上または英検2級に合格した者

英語学習優秀賞(6名)

機械工学科3年	藤原 安路
機械工学科4年	平野 俊
機械工学科5年	小原みなも
情報工学科5年	中辻 美憂
システム創成工学専攻	
電気電子システムコース1年	北田 恵裕
システム創成工学専攻	
情報システムコース2年	島岡 宏彰

英語学習奨励賞(9名)

情報工学科2年	松本 誠人
電気工学科3年	松村 奏佑
情報工学科3年	岡村隆太郎
	後藤 輝一
	山口 紗音
機械工学科5年	松本 直人
システム創成工学専攻	
電気電子システムコース2年	甲元 陸羽
物質創成工学専攻2年	(氏名非公表)2名



令和7年度修了生 専攻科研究優秀賞

システム創成工学専攻	坂倉 哲史
機械制御システムコース	入江 駿
システム創成工学専攻	
電気電子システムコース	堀内 風琳
システム創成工学専攻	
情報システムコース	島岡 宏彰
物質創成工学専攻	平岡 拓真





海外へ飛躍するチャンスをつかもう

グローバル教育センター長
松井 良明

皆さんにとって令和7年はどんな年だったでしょう。大阪・関西万博の開催もあり、海外からの来校者が多かった、というのがわたしの感想です。ひょっとしたら、皆さんの身の周りでも同じようなことが起きていたかもしれません。

奈良高専では、グローバル教育の一環として、海外協定校と協力して学生のための独自の海外派遣プログラムや海外学生の受け入れ事業などを実施しています。とくに令和5年から始まった「高専生の海外派遣支援事業」によって海外派遣に対するより多くの経済的支援も可能になっています。高専生はほんとうに恵まれていると感じています。

グローバル教育センターは、皆さんのグローバル・マインドを育成するための様々な取り組みを行っています。少し詳しく紹介します。

まずは先ほど述べた海外学生の受入事業です。奈良高専が行っている活動は、海外協定校からの短期訪問(1~2週間程度)だけでなく、短期留学生のインターンシップ(2~3か月)、そして本科3年生からの正規留学生の編入学の受入などです。たとえば、令和7年度であれば、シンガポールの2つのポリテクニクから計65名の訪問団を受け入れました。短期留学生は3名受け入れましたし、正規留学生は9名が在籍しました。

こういった海外学生の受入活動に加え、学生を海外に派遣するプログラムも実施しています。令和7年度は、香港、シンガポール、台湾に35名(短期訪問)、「海外インターンシップ」の一環として3名の専攻科生をシンガポールに派遣しました。

それ以外に本校独自の取組である「グローバル工学協働教育プログラム」(GECEP(本科3年生以上対象)、Neo GECEP(本科1、2年生対象))についても紹介しておきます。

これは選択科目を組み合わせた特別プログラムで、グローバル・エンジニアの養成をめざして設けられました。グローバル視

点でのSPIC力(Solution:課題解決能力、Publication:研究成果の発信力、Identity:独自性と独創性、Collaboration:協調性・共同研究力)を身につけた国際社会でイノベーションを生み出せるプロフェッショナル・リーダーの育成をめざしています。

このプログラムは本科や専攻科の卒業までに一定の選択科目を修得すればコース修了が認められるというもので、とくにNeo GECEPについては、新入生だけでなく、新2年生、新3年生も履修を開始することができます。とくに定員も定められてはいませんが、自分自身で科目の履修と単位の取得状況を把握し、必要な科目履修を行っていく必要があります。令和7年度の申請者数はNeo GECEP(本科1、2年生)だけで65名に上りました。

センターでは、皆さんを海外に派遣する機会を増やすために、引き続き、海外の教育機関との協定の締結に努めていきます。国際交流に関する案内は随時「学生掲示板」に掲示されますので、ぜひ定期的にチェックしてください。



香港專業教育學院(IVE)沙田キャンパスにて(2025年8月)



シンガポールの短期留学生と
春日大社にて
(2025年10月)



学生会活動について

電子制御工学科3年 橋本 恵宗

学生会会長の橋本恵宗です。本校の学生会は、学生一人ひとりが充実した学校生活を送ることを目指し、さまざまな活動に取り組んでいます。その活動は行事の運営にとどまらず、学生と学校をつなぐ役割を果たしながら、日常の学校生活を支え、より良い学習環境づくりへと広がっています。

その活動の一つが、スポーツ大会や高専祭などの学校行事の企画・運営です。これらの行事の実施にあたっては、学生会を中心に、学生自身が主体となって準備を進めています。事前の打ち合わせや役割分担、安全面の確認など、多くの工程を重ねながら、参加するすべての学生が安心して行事に取り組めるよう、関係する団体や先生方と連携して進めています。さらに、部活動や委員会がそれぞれの目標に向かって活動できるよう支援を行うほか、学生から寄せられた意見や要望をまとめ、学校へ伝えることで、学校生活の充実にもつなげています。

こうした活動は、多くの学生や先生方の協力によって成り立っています。学生会では、学年や学科を越えて意見を出し合いながら、より良い方法を模索し、活動を丁寧積み重ねています。行事の成功だけでなく、日常的な取り組みを通して学校全体のつながり

を深めていくことも、学生会の大切な役割の一つです。

学生会活動は、参加する学生にとっても大きな学びの機会となっています。企画を立てる力や協力して物事を進める力、責任をもって役割を果たす姿勢など、授業だけでは得られない経験を通して成長することができます。こうした経験は、将来それぞれの分野で活躍していく上でも、重要な力になると感じています。

これからも学生会は、学生が主体的に関わりながら、安心して学び、活動できる環境づくりを続けていきます。多くの方々のご理解とご協力に感謝するとともに、今後も本校の学校生活がより充実したものとなるよう、取り組みを続けてまいります。





KOSENセキュリティコンテスト2025優勝

情報工学科5年 和田 颯太

私たちはKOSENセキュリティコンテスト2025に「25時、MORE MORE VS コードでJUMP!。」として4人で出場し優勝することができました。このコンテストでは、限られた時間の中で提示された課題を解決し得点を積み上げていく競技です。知識のみならず状況整理や仮説検証の早さ、そしてチームの意思決定が結果に直結します。今回は優勝することを強く目指して大会に臨みました。

私たちのチームは、誰かが問題に行き詰まってもチーム全体が停滞しないような体制を作ること徹底しました。私は、メンバーが手を出しにくい問題セット内での難易度が高い問題を優先的に解き、突破口を作る役割を担いました。象徴的であったのがWeb分野の問題で、競技開始から1時間も経たないうちに解き切りましたが、この問題は最終的に他のどのチームにも解かれることはなく、私たちだけが正解した問題となりました。序盤に大きな得点を確保できたことで、以降の優先度付けやリソース配分が

安定し、チーム全体のペースを作れたと感じています。

競技を通じて、各メンバーが自分の担当問題に集中しつつ、必要なタイミングで情報を共有し、判断を速くする体制が機能しました。このチームワークこそが、優勝という結果につながった最大の要因だと確信しています。

今回得た学びは、「分からないこと」を早く言語化し、検証可能な形に落として共有する力の重要性です。個人の技術力はもちろん重要ですが、それをチームとしてどう活かすかが勝敗を分けず。この経験を活かし来年も優勝し、強いチームを維持することを期待しています。また、支えてくださった岡村先生をはじめとした関係者の皆さまに感謝を申し上げます。



高専GCON2025本選へ。チームでの挑戦と成果

物質化学工学科3年 福角 里菜

高専GCON2025(高専GIRLS SDGs×Technology Contest2025)において、私たちチーム「YAMATO Herbal」は令和7年12月13日・14日に開催された本選に出場しました。

今回私たちは、「女性特有の健康不安を軽減するカワラヨモギを用いた点鼻薬の開発提案」をテーマとして、イライラや生理痛など、女性特有の健康不安に着目し、それらを少しでも軽減することを目的とした点鼻薬の開発を提案しました。特に、日常生活の中で継続的に使用しやすいことや、コスト面での負担軽減を意識し、実用性の高い製品を目指しました。

チームは物質化学工学科3年の学生2名と情報工学科1年の学生3名で構成されており、それぞれの専門分野を生かした役割分担を行いました。物質化学工学科のメンバーは主にカワラヨモギ精油の抽出法や製剤化の技術的課題を整理し、実現に向けた方向性の検討を担当し、情報工学科のメンバーはアンケートの集計やデータ整理、提案内容の可視化を中心に担当しました。専門分野の異なるメンバーが協力することで、作業の効率化が図れただけでなく、多角的な視点から議論を行うことができ、大きな学びとなりました。

また、チーム内での議論にとどまらず、専門分野の

先生方や地域の企業の方々からも助言や協力をいただき、理論的な裏付けを行うことで提案内容の現実性や説得力を高めることができました。研究が社会とどのようにつながっているのかを実感する貴重な機会となりました。

コンテストへの取り組みの成果として、全89チームがエントリーする中、厳しい書類選考と二次面談を通過し、本選出場12チームに選ばれ、ファイナリスト賞を受賞することができました。チーム全員にとって、大きな達成感を得られる結果となりました。今回のGCONを通して、専門知識だけでなく、チームで協力して課題解決に取り組むことの重要性を学びました。ここで得られた経験や学びを、今後の学業や研究活動に積極的に生かしていきたいと考えています。



カウンセラーだより

心の状態、 表現してみませんか？

カウンセラー
大西 紘末

高専のみなさん、こんにちは。スクールカウンセラーの大西紘末です。昨年初めて高専に来た時の印象は、「授業に課題に部活に……高専生、とっても忙しそう!」でした。忙しいときにはストレスに気づきにくくなり、ケアすることを忘れがちです。ストレスの症状は人によって表れ方が違います。食欲が湧かない、眠れない、人と会うのがしんど

くなる、部屋が汚くなる、口調がきつくなる等々……。

ストレス解消の1つの方法として、表現するということが挙げられます。歌を歌ったり、絵を描いたり、映画や小説に感情移入したり、さまざまな活動が自分の心の状態を表現し、ストレスの解消につながります。色々試したけど、上手くいかなーい!という人はぜひ相談室も利用してみてくださいね。みなさんの心の状態を表現するお手伝いをします。

学生支援センター(学生相談) Webページ
<https://www.nara-k.ac.jp/life/shien/soudan/>



3連覇、 全国高専ラグビーフットボール大会

機械工学科5年 南崎 壽伸

私たちラグビー部は、1月4日から開催された全国高専ラグビーフットボール大会において3大会連続8回目の全国優勝を果たすことができました。

昨年度、キーポジションを担っていた先輩方が卒業し、今年はスタートメンバーの半分以上を2年生、3年生が占めるチームで戦うシーズンとなりました。今年は、これまで以上にフィジカル面の強化を徹底し「Fight On」のスローガンのもと、何度倒れても立ち上がり、戦い続ける熱さとひたむきさを大切にして練習に取り組んできました。

私たち5年生は、2人とも高専からラグビーを始め、決して上手い選手ではありませんでした。それでも、1年間、私たちを慕い、支えてくれた後輩たちのおかげで、全国高専大会という最高の舞台上、1年生の頃からライバルとして意識してきた仙台と、今シーズンで最も激しい試合を繰り広げ、優勝することができました。この優勝は、日々支えてくださっている保護者の皆様、OBの方々、そして学校関係者の皆様の支えがあってこそ成し遂げられたものです。改めて、感謝申し上げます。

私たち選手は、日頃の応援に対し、怪我なく、全力で戦い最高の試合をお見せすることで、少しでも多くの感動をお返ししたいと考えています。来年度も全国優勝に向かって突き進みますので、今後とも応援よろしくお祈りします。



学生課窓口 のご案内

～保護者の皆様～

教務・入試係(教務) 0743-55-6033

授業、定期試験、教科書、学籍異動(休学・復学・退学・卒業)、欠席・忌引・公欠・出席停止、大学編入学、専攻科、インターンシップ、学生証、住所・保証人等変更、在学・成績証明書 など

教務・入試係(入試) 0743-55-6032

入学試験、体験入学、入試説明会、研究生・聴講生 など

学生係 0743-55-6034

奨学金、高等学校等就学支援金、授業料等の免除・徴収猶予、課外活動、コンテスト、自転車・単車通学、免許、学割、通学証明書、就職 など

寮務係 0743-55-6035

寮生の生活、寮の諸経費、在寮証明書 など

保健室 0743-55-6172

保健衛生、カウンセリング相談予約、学生生活での怪我の保険 など

学生関係の担当窓口は次のとおりです。要件により該当する係の電話番号へ直接お問い合わせください。受付時間は平日8時30分～17時です。学生の呼び出しや伝言は行いませんので、あらかじめご了承ください。

第59回高専祭について

物質化学工学科4年 森 圭毅

今年度は11月8日、9日に、第59回高専祭を無事に開催することができました。開催にあたり、多大なるご協力をいただきました先生方、職員の皆様へ御礼申し上げます。

今年度の高専祭のテーマは「碧塵に翔る(へきれきにかける)」でした。このテーマには、学生一人ひとりの若さや可能性を、雷鳴のような力強いエネルギーに変えて飛躍していこうという想いを込めました。準備期間を振り返ると、幹部学生たちと遅くまで会議を重ねた日々がはっきりと思い浮かびます。予期せぬトラブルが多々ありましたが、それらを乗り越えるたびに、学生間の絆が深まってくのを感じました。

高専祭初日は天候に恵まれたものの、あいにく2日目は雨天に見舞われました。しかし、足元の悪い中であつたにもかかわらず、たくさんの方々にご来場いただきました。各学科や団体による展示や模擬店、ステージでの熱気あふれるライブやパフォーマンスなど、校内が活気に包まれた2日間でした。特に後夜祭での花火では、たくさんの笑顔や歓声を直接見ることができ、これまでの苦労が報われる思いでした。

高専祭は、単なる「お祭り」ではなく、日頃の学習成果の発表の場でもあり、学生が主体的に企画・運営をする貴重な学びの場でもあります。これまでの高専祭で培ったものを来年度以降に引き継ぎ、さらに素晴らしい高専祭を創り上げられるようにしていきたいと思えます。

最後になりましたが、ともに走り抜けてくれた幹部をはじめとする実行委員のメンバー、活動を手厚くサポートしてくださった教職員の皆様、そして高専祭を盛り上げてくれた全学生に心から感謝します。ありがとうございました。



卒業記念品の寄贈

令和7年度卒業生の皆さんから、卒業記念品として「テント」を寄贈していただきました。卒業生の皆さん、どうもありがとうございました。



編集後記

「ご卒業・修了おめでとうございます!」——何よりもまず、長きにわたる学生本人の努力、また保護者の皆様をはじめとする周囲の方々の支えに対しまして、お祝いの言葉を述べさせていただきます。卒業生だけでなく、在校生におきましても、1つ1つの写真に見られる学生の皆さんの「明るい」表情が、今後の皆さんの活躍に対する大きな期待を持たせてくれます。これからも、明るく楽しく、そして奈良高専で学んだことを生かして、皆さんそれぞれの人生を謳歌してください。

奈良高専広報センター

CAMPUS について

本校では、広報誌「CAMPUS」を11月と3月の年2回発行し、本校ホームページ(トップページ)学生生活> CAMPUS(広報誌)に掲載しています。